

## 問題

次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

チェック

- 1 これも今は昔、\*民部大輔篤昌みんぶのたいふあつまさといふ者ありけるを、\*法性寺ほふしやうじの御時、\*藏人所の所司よしすけに、義助とかやいふ者ありけり。くだんの篤昌を\*役に催しけるを、「1 われは、かやうの役はすべき者にもあらず」とて、参らざりけるを、所司、小舎人こどねりをあまたつけて、苛法かほふに催しければ、参りにけり。さて、まづ、所司に「もの申さん」と呼びければ、出であひけるに、この世ならず腹たちて、「かやうの役に催し給ふは、いかなることぞ。まづ篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。」
- 5 承らん」と、しきりに責めけれど、しばしはもの言はでるたりけるを、叱りて、「のたまへ。まづ、2 篤昌がありやうを承らん」と、いたう責めければ、「3 別のこと候はず。民部大輔五位の、鼻赤きにこそ知り申したれ」と言ひたりければ、「をう」と言ひて逃げにけり。

- また、この所司がゐたりける前を、忠恒ただつねといふ隨身、4 異様ことやうにて練り通りけるを見て、「\*わりある隨身の姿かな」と忍びやかに言ひけるを、耳とく聞きて、隨身、所司が前に立ち帰して、「わりあるとは、いかにのたまふことぞ」と咎とがめければ、「われは、人のわりのありなしもえ知らぬに、ただ今、\*武正たけまさ府生の通られつるを、この人々、5 『わりなき者の様体ようたいかな』と言ひあはせつるに、すこしも似給はねば、さてはもし、わりのおはするかと思ひて、申したりつるなり」と言ひたりければ、忠恒「をう」と言ひて逃げにけり。

問四 この所司をば、「6 荒所司」とぞつたりけるとか。

(『宇治拾遺物語』より)

注

\*民部大輔 || 民部省(戸籍・租税などを管轄した役所)の次官。

\*法性寺殿 || 藤原忠通。

\*藏人所の所司 || 「藏

問一 指示内容など文脈から適切な語を補って解釈する

問三 文脈を押さえる

問四 人物の行動や発言から文章の展開を理解する

人所」は、藏人（天皇の側近）が執務した役所。「所司」「小舎人」はそこで働く職員。\* 役Ⅱ 夫役・労役。\* わ

りあるⅡ 「わりなし」の対義語として、所司が即興で作った語。\* 武正府生Ⅱ 「府正」は衛府（宮中を護衛し、行

幸・行啓の供奉などをつかさどった役所の総称）の下級武士。「武正府正」は法性寺殿に仕える名隨身。

問三  
注を踏まえて登場人物の状況を押さえる

問一 傍線1で「篤昌」はどのようなことを言おうとしたのか、説明せよ。(7点)

問二 傍線2～4を口語訳せよ。(18点)

問三 傍線5について、次の(i)・(ii)に答えよ。(7点)

(i) 傍線5とあるが、どういうことか、説明せよ。

(ii) 所司はなぜ「わりある隨身の姿かな」と言ったのか、説明せよ。(8点)

問四 傍線6「荒所司」というあだ名にはどのような意味が込められているのか、説明せよ。(10点)

問二  
助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す

出典

『宇治拾遺物語』 六十二「篤昌・忠恒等の事」

『宇治拾遺物語』は、十三世紀前半頃に成立したとされる、編者不詳の説話集。内容は、仏教説話・世俗説話・民間説話などだが、全体的に教訓性は薄く、面白みや笑いの要素が強い点の特徴である。

解答

問一 自分は民部大輔五位であって、労役などをするような身分ではないから拒否する、ということ。

問二 2 篤昌がどのような身分の者とお考えなのかをうかがいたい

3 特別なことはいません

4 風変わりな格好で悠々と通った

問三 (i) 武正府生の様子がすばらしかったのを、人々がほめたということ。

(ii) 忠恒が、「わりなし」という武正のすばらしい様子とは正反対だったため「わり」が「なし」とは反対の「ある」と言った。

問四 どのような相手に対しても物怖じせず、相手を言い負かしてしまおう勇ましい所司、という意味。

### 解説

#### 今回の文章の概要

義助という所司が、男二人を話術で言い負かす

◎民部大輔篤昌の場合

・民部大輔篤昌が労役の召集に応じなかったため、所司が厳しくせきたてて参上させた

・篤昌は立腹し、「自分は労役を課されるような身分ではない」「この私」がどのような身分と思っているのかうかがいたい」と所司を責めた  
 ・所司は「民部大輔五位で、鼻が赤い方だとは存じております」と返事をした

・篤昌は「おう」と言って逃げ出してしまった

◎隨身忠恒の場合

・所司の前を、忠恒が変わった格好をして通り過ぎたところ、所司は「わりある、隨身の姿だなあ」と言った

・忠恒は「わりある、とはどのような意味だ」と所司を問いた

・所司は「人々が、武正府生に対して『わりなくすばらしい武者の様子だ』と言いつけていたが、あなた(＝忠恒)はそれに少しも似ていないので、わりが、おありかと思つて申し上げた」と返事をした  
 ・忠恒は「おう」と言って逃げ出してしまった

↓人々は所司を「荒所司」と名づけた

☑ 頻出パターン「1知恵と機転く難題解決型」と「4愚かな行動く滑稽話」に当てはまる。登場人物の言動に注目して、物語の展開をつかもう！

憤慨して迫りくる相手を所司は平然と言い負かし、急所を指摘された相手は「をう」とがく然とした叫び声をあげて逃げてしまうというのが笑いのポイント。

☑ 指示内容など文脈から適切な語を補つて解釈できたか

問一 傍線部は直訳すると「**わしは、このような「役」はするような身分でもない**」となる。「役(やく・えき)」は、人々を公用の労働に使うこと。また、割り当てられた公の労務。したがって、対象は主に一般人民である。ところが「われ(＝篤昌)」は「**民部大輔(＝民部省の次官)五位**」(l6)の身分であるため、それがどのような夫役であれ、**夫役などというものは自分のような身分の者のすることではない**、と拒否したのである。

☑ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳せたか

問二 2 「篤昌」とは自分のことで、「ありやう」は〈様子・状態〉の意。「承らん」は、「聞く」の謙讓語「承る」の未然形「承ら」に、意志の助動詞「ん」の終止形がついたもの。「ん(む)」には他に、「推量・適当・勧誘・婉曲・仮定」などの意味があるが、ここは主語が一人称(篤昌)なので、篤昌の意志を表す。〈自分の様子を相手に聞きたい〉と言っているのは、つまり〈相手が自分をどのような身分の者だと思っているのか聞きたい〉ということ、④4~5の「篤昌をば、いかなる者と知り給ひたるぞ。承らん」を言い換えたものである。ここを参考にして訳出しよう。

3 「別のこと」は〈特別なこと・とりたてて言うべきこと〉で、「候はず」は、「あり」の丁寧語「候ふ」の未然形「候は」に、打消の助動詞「ず」の終止形がついたもの。よって〈特別なことはございません〉という訳になる。ここは、傍線2で〈自分をどのような身分の者だと思っているのか聞きたい〉と言った篤昌に対する返答。身分をかさにきて命令を断ってきた篤昌に対し、所司は篤昌の身体的特徴を指摘してやりこめたのである。

4 「異様にて」は、形容動詞「異様なり」(≡普通と違って)の風変わりだ」の連用形「異様に」に、接続助詞「て」がついたもの。続く「練り通りける」を修飾するので、〈風変わりな格好で〉と言葉を補おう。「練る」は〈ゆっくりと(行列を作ったりして)進む〉(ゆっくりともったいぶって歩く)という意。つまり、普通の歩き方ではなく、自分の異様な風体を誇示しながらゆっくりと歩いていたのだ。

「いづべ」に「て」の識別についてまとめておく。

【いづべ】の識別

① 格助詞「にて」

↓ 体言・連体形に接続。〈いづべ・いづべの時に(場所・時)〉〈いづべ・いづべによって(手段・方法)〉〈いづべのいづべによって(原因・理由)〉などと訳出。

② 断定の助動詞「なり」の連用形+接続助詞「て」

↓ 体言・連体形に接続。〈いづべであつて〉と訳出。

③ ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾+接続助詞「て」

↓ 形容動詞の語幹に「いづな」とつけることができる。「異様に」は「異様な」とすることができ、「異様な」の連用形活用語尾。〈いづで〉と訳出。

④ 完了の助動詞「ぬ」の連用形+接続助詞「て」

↓ 連用形に接続。「にて候ふ」「にて侍り」の形になることが多い。〈いづてしまつて〉と訳出。

☑ 文脈を押さえられたか

☑ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえられたか

問三 (i) 「わりなし」は、基本的には「ことわり(理)なし」、すなわち〈道理に外れている・筋道が立たない〉という意味である。そこから、〈どうしようもない・無理だ・困る・つらい〉といった困惑の気持ち、また、〈並外れてひどい・悪い〉、反対に〈並外れてすぐれている・すばらしい・美しい〉などの程度のはなはだしいことを表す

用法が生じてきた。

さて、傍線部の「わりなし」の意味だが、風変わりな格好をして「わりある隨身」と言われた忠恒が、その理由を知って逃げ出していることから、「わりあり」は悪い意味、反対の「わりなし」は良い意味だと推測できる。よって、**武正の身なりに対しては〈並外れてすぐれている〉**といったプラスの意味がふさわしく、傍線部を直訳すると「**すばらしい武者の様子だなあ**」**と言いつた**」となる。解答にあたっては、**（人々が（武正の様子を）ほめた）**という内容も加えるとよい。

(ii) 傍線部直後の「すこしも似給はねば……わりのおはするかと」思ひて、申したりつるなり（＝（武正の様子にあなたは）少しも似ていらっしやらないから……わりがおありなのかと思つて、申したのだった）をもとに考え、解答をまとめよう。「**わりなし**」という**すばらしい様子の武正に対して、忠恒が正反対の様子だったので、「わり」がある**と言つたのである。

☑ 人物の行動や発言から文章の展開を理解できたか

問四 二つのエピソードを通して、「荒」の意味を考えよう。

「荒」は一般に、〈荒々しい・勢いが激しい・乱暴だ〉などの意味があるが、所司の場合は暴力をふるっているわけでもないし、「荒」が否定的な悪い意味で使われている様子でもない。最初のエピソードの篤昌は、民部大輔五位という身分を誇示してきたが、所司は平然として「別のこと候はず」と受け流し、さらに、赤鼻のことを容赦なく指摘して追い払ってしまう。一方、変わり者の忠恒に対しては、「わりある」という皮肉をこめた言葉でやりこめて退散させている。**どのよ**

うな種類の人間を相手にしても**一歩も引かず、きつい言葉で急所を突いてやっつけてしまう**——そのような所司の強力な弁舌に、人々は**〈勇猛・勇ましい〉**といった意味も込めて「**荒所司**」とあだ名したのである。ここでの「荒」は否定的な意味は強くない。

全訳

これも今となつては昔の話で、民部大輔篤昌という者がいたが、法性寺殿の御治世中、藏人所の所司に、義助とかいう者がいた。上述の篤昌を夫役に召集したが、「**い**わしは、**そのよ**うな夫役は**するよ**うな**身分でもない**」**と**言つて、参上しなかつたので、所司が、小舎人を大勢つけて、厳しくせきたてたところ、参上したのだつた。そして、まず、所司に「**申**したいことがある」と声をかけたので、出て対面したところ、たいそう腹を立てて、「**こ**のような夫役に召集な**さ**るとは、**ど**ういうことか。まずこの篤昌を、**ど**のような（身分の）者と**お**考えな**か**。うかがいたい」と、しきりに責め立てたが、（所司は）しばらくはものも言わずに座っていたので、叱つて、「口をきかれよ。まず、**2**（この）篤昌の様子（＝篤昌が**ど**のような身分の者**と**お**考**え**な**のか）をうかがいたい」と、ひどく責め立てたところ、「**3**特別なこと**と**は**ご**ざ**い**ませ**ん**。民部大輔五位で、鼻が赤い方だと存じております」と言つたので、（篤昌は）「おう」と言つて逃げてしまった。

また、この所司が座っていた前を、忠恒という隨身が、**4**風**変**わりな格好で悠々と通つたのを見て、「わりある隨身の姿だなあ」とこっそり言つたのを、耳ざとく聞きつけて、隨身は、所司の前にたち戻つて、「わりある」とは、**ど**のような意味でおしやつたのか」と問いた

だしたところ、「わしは、人のわりのあるなしもよく知らないが、たった今、武正府生が通られたのを、この人々が、5 『すばらしい武者の様子だなあ』と言いついたけれども、（武正の様子にあなたは）少しも似ていらっしやらないから、それではもしかしたら、わりがおお、りなのかと思って、申し上げたのだった」と言ったので、忠恒は「おう」と言って逃げてしまった。

（人々は）この所司を、「6 荒所司」と名づけたとかいう話である。

#### まとめ

- ・ 指示内容など文脈から適切な語を補って解釈する
- ・ 助詞・助動詞・敬語などの細部に注意して訳す
- ・ 文脈を押さえる
- ・ 注を踏まえて登場人物の状況を押さえる
- ・ 人物の行動や発言から文章の展開を理解する